



October

活動報告

今、
センターでは…

10月活動報告

10.10(土) 第3回総合診療力向上講座
(府医会館・ホテルマーレたかた・けいはんなプラザ)
(中面をご覧ください。)

10.14(水) 「ご家族向け介護セミナー」
～おくちのにおい気になりませんか?～(市民対象)

10.15(木) 第1回 京都在宅医療塾Ⅱ ～実践編～
(中面をご覧ください。)

10.17(土) かかりつけ医 認知症対応力向上研修(伏見会場)
(中面をご覧ください。)

10.18(日) 第1回 京都在宅医療塾Ⅰ～探究編～
(中面をご覧ください。)

10.24(土) 認知症サポート医 フォローアップ研修(北部会場)

10.28(水) 「ご家族向け介護セミナー」
～初心者向け糖尿病講座と皮フ・爪のお手入れ～(市民対象)

10.31(土) 第3回 京都在宅医療戦略会議

新コーナー

知っておきたい!

在宅医療と 介護保険

サポートセンターでは、毎日数々のお問合せのお電話をお受けしており、
よくお受けするご質問を中心にこのコーナーへ毎月、掲載して参ります。

初回は、介護保険の【居宅療養管理指導(医師)】について解説致します。
代表的な質問として『居宅療養管理指導費を算定しようかと思うのだけど、
開始方法が判らない…』または『算定要件は?』といった内容が多く寄せられます。

では、そもそも【居宅療養管理指導】とはどのようなものなのでしょうか…?

医師が通院が困難な利用者(患者)の病状や心身の状況を把握し、指導・助言を行います。その情報をケアマネジャー
に対して提供する事により、医療・介護の連携を推進し、利用者の療養生活の質の向上を図る事を目的としています。

Q 算定要件は?

- A ①訪問診療・往診して、計画的かつ継続的に医学管理を実施している。
②利用者・家族へ指導・助言をしている。
③介護支援専門員(ケアマネジャー)に情報提供をしている。

Q 報酬単価は?

- A 医師は月2回まで算定可能となっており、1回につき503単位(5,030円)
(在医総管を算定せず、同一建物居住者以外の場合)となっております。

Q 開始にあたって

- A 所定の用紙(京都府医師会のホームページを参照)を2枚提出すると、国保連合会から申請書類が届きますので、ご返送いただければ、算定開始可能です。その後、利用者・家族に重要事項の説明を行い、サービスの開始となります。

サポートセンターでは居宅療養管理指導について詳細を記載した京都医報の冊子付録(5月1日号)をご準備しております。また、ホームページから各種書類もダウンロード可能ですので、ご不明な点がございましたら、下記までお気軽にお問い合わせください。

お問い合わせ、ご意見及びご感想は

京都府医師会在宅医療・地域包括ケアサポートセンター

〒604-8585 京都府京都市中京区西ノ京東梅尾町6番地 京都府医師会館3階 tel.075-354-6079 fax.075-354-6074

京都府医師会

在宅医療・地域包括ケア サポートセンター news

Vol. 6

2015年11月1日

京都府医師会在宅医療・地域包括ケアサポートセンター

〒604-8585 京都府京都市中京区西ノ京東梅尾町6番地 京都府医師会館3階 tel.075-354-6079 fax.075-354-6074

全ての科の先生方 一度 介護認定審査委員を 体験してみませんか?



本日は平成27年10月7日 天気 快晴。ここは京都府南部の、木津川市(とても自然の豊かなところだす)の山城南保健所です。ここでは3つの合議会で介護認定審査会が行われます。本日はA合議体の審査日、医師2人、歯科医師1人、介護支援専門員1人の4人が和気あい合いと認定審査を進めています。

介護保険の認定審査会という「僕は眼科だから…」とか「うちの診療所では介護保険の意見書も書いていないので…」というお声を聞くのも事実です。でもこの写真の審査会の風景をご覧ください。

審査委員になると新しい出会い、新しい知識を得るチャンスがめぐってきます。私自身、審査会に参加することで小児科、精神科、整形外科など多くの科の先生方と御同席し、多くの科の知識を得ました。歯医者さんもいつもおられるので、門前の小僧のように歯科の知識も少し増えました。介護支援専門員の方には、在宅患者さんの介護の事を何でも相談してきました。先生方、いまや全国の要介護者は600万人以上、在宅でサービスを受けられている方は400万人近くおられます。

どの科の先生方も身の回り(お身内を含め)や直接主治医意見書を書いておられない患者さんの中にも多くの要介護者がおられるはずだす。医師として介護保険の仕組みを知り、歯科をはじめ様々な科の先生から学び、多職種の方から介護の話聞くことは決して損なことではないと思います。

では、本日の審査会のメンバーにもインタビューをしてみましょう。初めは整形外科医の杉本さん「今回初めて審査会に参加するようになり、主治医意見の記載を見直す機会になりました。」歯科医師の田中さん「介護認定の仕組みと認定審査の大切さを学びました。」最後に介護支援専門員の村上さん「審査を通じて医療や圏域の介護事情について勉強させて頂いています。」とっても楽しい審査会です。

どうですか先生方。ぜひ一度介護認定審査員を経験してみませんか?

京都府医師会 理事

藤村 聡

在宅医療塾は、平成24年より開催し多くの方に参加いただいておりますが、今年度からは、多職種の参加も含めた講義形式の「探究編」と実習を取り入れた「実践編」として開催いたします。

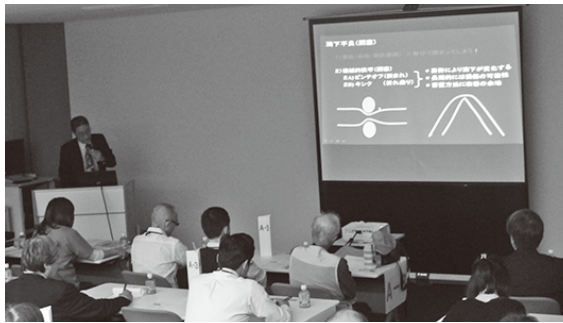
第1回 京都在宅医療塾Ⅰ ～探究編～ 開催報告



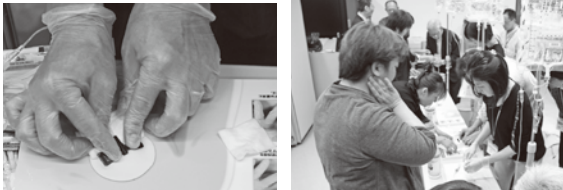
医師と看護職によるグループワークに初めて参加した方も多かったようですが、平原先生の進行と各グループで司会いただいた先生のリードで活発な意見交換ができ、実践的な議論が行われました。参加者より、「具体的な症例提示と講義で、明日からの在宅医療で生かせるアセスメントが学べた」「在宅医療の現場では、他の医療機関の方と意見交換する機会が少ないため、休憩時間も様々な参加者と情報交換ができ、有意義な時間が過ぎてしまいました」などのお声をいただきました。

11月22日(日)開催の第2回は、テーマを「認知症の患者さんを在宅で看取る」として開催いたします。

第1回 京都在宅医療塾Ⅱ ～実践編～ 開催報告



基礎講座の様子



実技演習の様子



和気あいあいとした雰囲気の中、活発に質疑応答が行われました。

梶原診療所在宅総合ケアセンター長、オレンジほっとクリニック所長 平原 佐斗司先生をお迎えし、10月18日(日)に第1回研修会を開催し、医師84名 看護師77名 計161名が参加されました。

第1回は「在宅での急性期の対応の仕方」をテーマに、午前の部では基本講座「在宅医療における急性期のアセスメントとこつ」と「在宅での肺炎症例」についてワークショップを行いました。グループワークでは、自己紹介の後、講師より「高度アルツハイマー型認知症の88歳男性が3度目の肺炎を発症した事例」の症例提示があり①治療と②ケアについて意見交換を行いました。

昼休憩の後、グループワークの結果発表、講師の症例解説とミニレクチャーが行われました。

第1回は、「在宅での輸液について」をテーマに開催し、医師経験3年目～50年目までの医師27名が参加されました。

三菱京都病院放射線科部長 大田 豊承先生に「最新のCVポート管理について」、たなか往診クリニック院長 田中 誠先生から診療報酬も含め具体的な「在宅での輸液について」、訪問看護認定看護師 勝本 孝子さんからは、「患者・家族への指導ケアについて」それぞれ講義いただきました。

講義後、まつだ在宅クリニック院長 松田 かがみ先生より演習についてのオリエンテーションと器材の説明があり、訪問看護認定看護師がファシリテーターとなりCVポート針・静脈留置針の穿刺と固定の演習をグループごとに行いました。演習中、演習後も講師がアドバイザーとして参加され、参加者の具体的な質問に回答いただきました。

また、輸液ポンプやドレッシング材についての展示ブースを設置し、コストも含め紹介しました。

今回、定員以上の申込みをいただきまして、第2回研修会も同じテーマ「在宅での輸液について」で開催いたします。是非、ご参加ください。



保育ルームでの様子

受講者の声 ～受講後アンケートより抜粋～

- ・自分流でやっていた事の正しかった事、間違っていた事がわかって、実践的で良かったです。
- ・今後、在宅のCVポートが増えると思うので、実技が学べてよかった。
- ・消毒の仕方を確認したこと。→病院スタッフにも伝えます。
- ・実技をやらしていただいたことで忘れなと思います。
- ・実際に手技ができてよかった。
- ・講義も実習もすべて良かった。

第3回 総合診療力向上講座 開催報告



京都府医師会館212・213の様子



京都府医師会館601(TV会議システム)の様子



南部会場(TV会議システム)の様子



北部会場(TV会議システム)の様子

洛和会丸太町病院 救急・総合診療科医長 上田 剛士先生をお迎えし、10月10日(土)に第3回総合診療力向上講座が開催され、164名の先生方が参加されました。今回よりTV会議システムを活用し、府医会館以外でも受講いただけるようになり、南部会場「けいはんなプラザ」7名、北部会場「ホテルマーレたかた」10名の先生が参加されました。

第3回、第4回のテーマは、「心因性疾患の身体所見」であり、平成27年9月21日に発刊された講師著書「非器質性・心因性疾患を身体診察で診断するためのエビデンス」を基にした大変興味深い内容となっております。

様々な診療科の先生が、日常診療で非器質性・心因性の疾患を診断する必要に迫られる場面などで、診断に役立つ徴候や反射等の身体所見をイラストや動画を多く用いたPowerPointでわかりやすく講義いただきました。器質的疾患を除外して精神疾患を診断するのではなく、精神疾患を身体所見で積極的に診断できるようになれるという講師の熱意が感じられる研修会でした。

アンケートより、会場からの「心因性疾患患者を心療内科へ紹介する場合、受診に抵抗感を覚える方もあり難しい」という質問に「こういう症状が出るまで、ため込んでいたんですね。」と患者に伝えることで、心療内科への受診がスムーズに行えるという講師の回答に感嘆したとの感想もいただいております。

次回、第4回研修会も是非ご参加ください。

TV中継のご意見
・座席にゆとりがあってよかった。・大変ありがたいシステムです。
画像と会場の立地については、改善が必要と御意見をいただきました。

主治医研修会



今年度最終の主治医研修会が京都府医師会館で実施され、78名の先生方にご出席いただきました。冒頭、本会介護保険担当の藤村理事より介護保険「主治医意見書」の記載についての説明がなされ、その後、主治医意見書の『がん等の疼痛』欄について、「早期からの痛み治療の重要性の理解とその評価・対応について」と題した内容で京都府立医科大学附属病院疼痛緩和医療部 上野 博司先生にご講演頂きました。非がん性慢性疼痛のオピオイド鎮痛薬使用についての重要性や、高齢者に特化した選択や使用方法などの詳細についてもご教示頂きました。

かかりつけ医認知症対応力向上研修

本年度、3 会場で予定しております、標記研修会の第 1 回目が伏見会場にて開催されました。京都大学医学部附属病院神経内科の武地 一先生のご講演で、医師43名、地域包括支援センター職員8名の合計51名の皆様にご出席いただき、活発な意見交換や質疑応答がなされました。

今年度は伏見会場のほか、西京会場(1月30日)舞鶴会場(3月5日)を予定しております。また、10月24日に開催されました、認知症サポート医フォローアップ研修会の模様は、次号12月号でご報告の予定です。



伏見会場の様子

研修会のお知らせ

●第4回 総合診療力向上講座

11月7日(土) 14:30～16:30 京都府医師会館3階【310】
サンプラザ万助、石鎚会 田辺中央病院

4回シリーズの
最終回となります

次回、11月7日(土)に開催されます、第4回総合診療力向上講座は、TV中継システムを活用します！本会場を京都府医師会館、北部会場は「サンプラザ万助」南部会場は「石鎚会 田辺中央病院」で実施いたします。多くの先生方のご参加をお待ちしております。
※石鎚会 田辺中央病院様、ご協力頂きましてありがとうございます。

●第2回 在宅医療塾Ⅰ ～探究編～

11月22日(日) 10:00～14:00 京都府医師会館3階【310】

4回シリーズで
開催しております

●第2回 在宅医療塾Ⅱ ～実践編～

11月19日(木) 18:00～20:00

京都府医療トレーニングセンター
(京都府医師会館5階)

5回シリーズで
開催しております